

令和2年（2020年）7月豪雨
非常災害対策本部会議（第8回）議事録

日時：令和2年7月17日（金）16：00～16：09

場所：中央合同庁舎第8号館3階災害対策本部会議室

1. 政府の対応状況等について

（内閣府防災）

○政府の対応状況等について、2点申し上げる。

○1点目は、熊本県からの要請を踏まえた応援職員の派遣における新型コロナウイルス感染症対策の徹底についてである。昨日、事務連絡で関係省庁の皆様には、通知をさせて頂いているが、国の職員の応援派遣にあたっては、これまでも長期間健康状態に問題がなく、周囲にも体調不良者がいない職員であることを前提に、マスクの着用や手指消毒等々、感染防止対策に留意しながら、実施頂いていることと思う。7月8日から12日まで派遣されていた保健師が派遣終了後に感染症に感染していることが判明したことを踏まえて、熊本県から訪問前の体調確認や、基本的な感染防止対策、日常的な検温等の健康管理の徹底に係る要請文と合わせて、国の応援職員の派遣に際しては、派遣元の責任において、派遣者に対して、熊本県作成のチェックリストに記載のある健康状態の毎日の確認、業務従事の際の感染防止対策について周知・徹底をする。また、派遣先に着任後は、業務の従事に先立ち、体温の測定や味覚等の異常、咳・倦怠感等の自覚症状の確認等の体調管理について、毎日、徹底して行う、健康状態について現地の各所属の責任者に対して報告することとなっているので、また改めて、各省庁におかれても、感染防止対策を徹底したうえで、災害対応を行って頂きたい。

○それから、2点目としては、今後、月内を目途に被災者生活・生業再建支援パッケージを取りまとめていく予定にしているのので、関係省庁の皆様のご協力をお願いしたい。

（気象庁）

○梅雨前線は引き続き日本の付近にある。今現在は沖縄から関東の南に向けて雨域が連なっている状態で、所々で、雨が強く降っているという状態。この梅雨前線これから少し北上し、さらに上空の気圧の谷や低気圧の影響で、18日東日本の太平洋側が中心だと考えているが、激しい雨の降るところがある見込みである。その後も引き続き梅雨前線が日本に停滞して、少なくとも19日までは前線の活動が活発になり、大雨になる可能性があるといったところである。先ほど申しあげたとおり、梅雨前線このあとも日本付近にとどまるという見込みであり、そろそろ季節的には梅雨明けの季節であるが、今のところ梅雨明けについての見通しを申し上げられる状況ではない。

2. 非常災害対策本部長発言

(防災担当大臣)

- 熊本県と鹿児島県に大雨特別警報が発表されてから明日で2週間となるが、今なお行方不明の方がいらっしゃるほか、今朝時点で2,000名以上の方が避難を続けている。
- 昨日と一昨日の2日間、今井政務官とともに、福岡県及び大分県を視察した。冠水による農地の被害、彦山川の浸水被害、国道の流出現場、玖珠川の氾濫による温泉街の浸水被害を視察し、両県の知事、久留米市長及び日田市長との意見交換を行った。
- 視察を通して、生活と生業の再建は待たなしであると、改めて認識をした。拝見した被災の状況、いただいた地域の御要望をしっかりと受け止め、より一層スピード感を持って、諸対策を進めていく所存である。
- 続いて、令和2年7月豪雨を含む今年の梅雨前線豪雨等による激甚災害については、既に10日と13日に指定見込みを報告しているところであるが、新たに適用措置を追加する見込みとなった。
- 具体的には、農林水産業協同利用施設災害復旧事業の特例、雇用保険法による求職者給付の支給に関する特例など6つの措置について、地域を限定しない「本激」として指定する見込み。
- 関係省庁におかれては、速やかな見込みの公表にご尽力いただき感謝申し上げます。
- 調査は継続中であり、適用措置等のさらなる追加があれば、ご報告する。
- 第三に、被災地では、6県20市町村でボランティアセンターが開設されており、これまでに約4,800名の皆様がボランティアとして家屋からの泥出し等を実施いただいている。ボランティアの皆様に対し、厚く御礼を申し上げます。
- 本日より、熊本県の人吉市へのボランティアバスの運行も開始された。前線の活動が続いており、引き続き雨への警戒が必要な状況となっているが、新型コロナウイルス感染症への対策を講じ、被災地の状況や情報をよく確認をいただいたうえで、被災地の一日も早い復旧・復興に向け、引き続きご協力をお願いします。
- 最後に、関係省庁におかれては、引き続き被災地の諸課題から目を逸らすことなく、復旧・復興に全力で取り組んで頂くとともに、被災地の実情を踏まえて、月内の対策パッケージのとりまとめに向けた積極的な検討をお願い申し上げます。

(以上)